

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	全職員で話し合い、ホーム独自の理念を作成し、見える場所へ掲示している。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念に向けて各職員が自分ケアを意識しながら取り組んでいる。また、定期的に振り返りを行っている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議の中でホームの理念や取り組みなどに伝え、少しずつ理解を頂いている。パンフレットを作成中である。	○ パンフレットを作成し、知っていただけるよう工夫していく。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近くに公園があり散歩などを行っている。近所の方とお互いに声を掛け合う事で顔を覚えて頂く様状況作りに心掛けている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	保育園との交流や夏祭りなどで地域との交流はある。食材については、地域の商店を利用し買い物等入居者と出かけることで社会への参加もある程度は保っている。	○ ホーム独自で夕涼み会を検討中である。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議の中で地域との関わり方について話し合いの場を設けている。地域の方から意見を頂き実施に向けて取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で話し合い自分たちの気付きや振り返りが出来ている。日頃の意識向上にも努めている。定期的に併設老健の役職者へ意見を求めアドバイスを得ている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を実施している。現在の取り組みについて意見や助言などを頂き、ホームの理念に近づけるように活かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営上の疑問点等は積極的に市へ相談する等、日頃から連絡を取る機会の確保に心掛けている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	パンフレットを置いたり利用者、家族の状況をみて必要に応じて説明を行っている。説明は管理者、職員で行い説明不足や間違いが起きない様に公的機関(社会福祉協議会)とも連携をとっている。また、勉強会を行い理解するように努めている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者を取り巻く家族の背景などを全職員が理解するよう努めている。また、定期的なカンファレンスを行い理解している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、利用者、家族の話を傾聴するよう努めている。説明する際はわかりやすい言葉を選び理解されるまで説明している。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者からの不満などは記録に残すようにしている。ミーティングやカンファレンス時にケアの見直しを行っている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月家族の方へ手紙を郵送しており、行事の計画やお知らせをしている。面会に来られた際や近況を伝えたり病院受診時には必ず報告している。	○ サービス担当者会議は、職員のみで行っていた。今後は家族への参加もして頂き、その中でホームでの状態などについて報告していく。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。年3～4回家族会を実施。食事会や外出など必ず家族の方へ呼び掛けをしており、面会時などの会話にて意見など言える環境作りに努めている。	○ サービス担当者会議に参加していただき、意見などをいう機会を作っていく。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な併設施設での会議やホーム内でのミーティングを行っている。他部署の取り組みなど、活かせる事は反映するように努めている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	事前に分かっている事については、勤務などの調節を行なっている。緊急時には、併設の事業所などの協力を得られている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の配置換えは行われるが、管理者の異動は極力避けている。職員の交代についても急な交代は避けるようにしている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1回の全体ミーティング、年に4回研究発表、年に2回全体の研修会がある。法人外の研修も積極的に参加するようにしている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホームの連絡会や研修会に参加した際には、話し合い情報の交換をしている。また、研修会で学んだ事は、ミーティング時に報告を行い、取り入れるように努めている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	法人全体での懇親会などがある。全員でホーム外活動に参加し、リフレッシュを図っている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	定期的に全体ミーティング、幹部職員会等が開催されている。研修会等への参加も積極的に推進している。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人から話を聞く事を大切にしている。相談時には、早期解決の為、関係ケアマネージャーを含め対応することもある。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談時には、管理者が家族の話を書くように対応している。必要に応じて関係ケアマネージャーを含め対応する事もある。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時には、管理者が対応している。カルテのフェイスシートを使用したりアセスメントを行い、職員間で話し合いをもつこともある。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族の方へ入居前には必ず本人へ説明して頂く様に声掛けを行っている。入居後はこまめに状況は伝え、必要に応じて昼間の外出や面会などをお願いしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と入居者は、生活の場において、一緒に同じことをしたり、みたりしゆっくり過ごせる時間を作っている。その中でよい人間関係を築けるように努めている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会や行事の際は家族の方と話す機会を持ち、ホームでの日常生活の状況等を伝えている。	○	サービス担当者会議へ参加してもらい、その中で家族にも役割をもってもらい一緒に支えていく。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の生活歴や家族との関係は理解できている。必要に応じて面会にきて頂ける様に声掛けをしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が知人に会いたいなど希望された時には電話などを行い面会を依頼しいつでもゆっくり出来るよう場所などの配慮をしている		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係は理解出来ており、利用者同士が関わり合える様に洗濯物たたみや、レクリエーション等での場面作りもつづけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が終了していてもこれまでと変わらない対応に心掛け、他の事業所で見かけた際に声を掛けるなどしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の意向は管理者が聞いている。生活歴の把握困難な方場合はアセスメント等を活用し職員間で話し合いを行っている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、入居者からの情報を収集している。また、入居者との会話の中で新しい情報を得ることもある。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	1日の過ごし方は、生活歴や日常の行動観察により把握し、記録に残している。心身の状態については、1日1回はバイタルチェックを行っている。出勤時には必ずカルテや日報に目を通すようにしている。		
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画を立てる時は本人の希望を第一に考え、カンファレンスを行い職員全員で意見などを出し合って介護計画を作成している。	○	サービス担当者会議の中で本人も参加してもらい本人の意見など重視し介護計画を作成していく。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に全職員にて現状、ケアについての見直しをしている。見直し以前に変化が生じた際は、本人、家族の意見なども踏まえて他職種との連携をとり介護計画を変更している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿って記録を記入している。また、状態の把握や新しいケアを行う際には、経過をおって記録している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ベッドの空きがある場合のみ、ショートステイが利用できる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	併設の老健にて、ボランティアなどによる慰問がある。また、運営推進会議に、民生委員、警察等も参加し協力しながら支援している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	2ヶ月に1回、他のサービス機関との会議がある。本人に希望や状態変化時は、事前に伝え本人の意向に沿うよう支援できるよう調整している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	ケアプランの相談等で地域包括センターへ相談することがあり、助言を頂いている。又、玄関には、地域福祉権利擁護事業のパンフレットを備え、必要に応じて呼びかけをしている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望する医療機関を利用している。定期的な受診や往診、急変時の対応など、適切な医療が受けられている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>かかりつけの医療機関があり定期的な受診等を行っており、認知症の方の把握が出来ている。主治医と相談の上、必要に応じて専門医への受診を検討している。</p>	
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>連携を取っている医療機関へ定期受診を行っており、その際は必ず職員が付き添い病院の看護師との連携を図るためにも情報交換を行っている。</p>	
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>面会等に行った際、入院先の看護師等へ本人の状況等を聞き、ホームに持ち帰った際ケアカンファレンスを行い、退院後の体制づくりに努めている。</p>	
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>ホーム入居時に家族へ意向を聞き、定期的に意向の確認をしている。定期的なカンファレンス等の中で、方針を立て、医療機関との連携も取れるように配慮している。</p>	
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>入居時や状態変化時に家族の意向を確認している。本人、家族の意向をふまえて協力医療機関への検討もしている。</p>	
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>家族、職員間での話し合いを行っている。退所や入院の際は、情報提供書を渡している。他事業所との会議の中で情報交換を行う事もある。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人が気にされている言葉はかけない様になっている。その時の状況や状態を考慮しながら、尊重した対応を心掛けている。カルテ棚等個人の名前が見えないように配慮している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の訴えは、傾聴する様に心掛け、理解出来る言葉で説明している。また、声掛けを増やし本人が納得した上で行動するよう心掛けている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人が今まで生きてきた生活歴を把握するよう心掛けている。強制することなく、本人の希望や状態に応じて一日を過ごしてもらっている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	週2回併設老健に理容師が来られる。本人や家族からの希望時がない場合はそこを利用している。服装については、なるべく選んで頂く様に声かけ支援している	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや味見、盛り付けなどを一緒に行っている。食事中はドレッシングなどの調味料をおき好みに合わせて使用出来る様にしている。また、一緒に食べる事で見守りや声かけし周りをサポートできている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつなどは季節にあったものを提供するように心掛けている。お酒やタバコは好まれない。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居者の行動観察を行い本人の排泄パターンにあわせて声かけ、誘導を実施している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の拒否、体調が悪い方については日を改めて対応している。入浴剤を使用したり季節風呂も実施している。入浴はゆっくり出来る様に心掛けている。	○	現在、入浴日以外の希望などは聞かれない。希望が出てきたときには対応していく。温泉なども計画していく。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	毎朝ベットメイキングを実施している。また天候の良い日には寝具を干している。寝具に関して自分の希望する物を使用している方もいる。添い寝をする場合もあり精神面の安定に努めている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人や家族より在宅の生活状況を聞き把握するよう努めている。洗濯物たたみや食事の準備などを一緒にする事で他者との交流が出来ている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	各々で所持している方もいるが預かっている方もいる。所持している方については、本人と一緒に確認している。	○	本人がお金を使える場面がもてる様に支援していく。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	帰宅願望のある方や日中よく外へ出られる方については、散歩などを行い対応している。必要に応じて家族へ連絡したり外出などを依頼する事もある。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	特に入居者からの希望は聞かれない。面会など少ない家族については自宅へ連れていくなど支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望時や家族より電話がきた際には話ができる様配慮している。時節の挨拶状を出したり入居者の手書きの年賀状を作成したりと支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	敬老の日等に地域の方からの訪問、面会がある。面会時は、居室にて過ごして頂く様に配慮している。お茶などを出しゆっくり過ごせる様にしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中はすべて鍵をあけており行動の制限はしていない。身体拘束対策委員会があり月に1度会議等で勉強会や取り組みについて話し合いを実施している		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中すべての鍵を開錠している。施設の可能性がある方については常に目を配り行動観察を行い一緒に散歩するなど対応している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	離設の可能性のある方については、職員同士で声掛けを行い、場所の確認を行っている。転倒等の恐れのある方については、巡視をこまめに行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険な洗剤類は一定の保管場所において施錠を行ったり、入居者の目の届かない場所へ保管している。また、入居者の危険な私物(爪切り等)は本人の同意のもと預かり保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	入居者の状況を記録やモニタリング、評価などから把握するよう努めている。ミーティング時に見直しを行い早期に対応の変更を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時の対応などについて研修会がある。緊急時のマニュアルがあり、ホームに看護師がいる。不在時には併設老健へ緊急時の応援依頼をする事もある。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人全体での防災訓練を年2回実施している。避難ルートの確認、対応などの確認をしている。運営推進会議の中でも地元消防団の確認と地域の方への呼び掛けを行っている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	転倒等のリスクなどある方については事前に状況などを伝え理解して頂いている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルチェックを実施し状態の把握に努めている。状態に変化がある方については他の職員へも伝え状況を共有している。再検を行い、必要に応じて病院受診をしたり指示をもらい対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	月に1度は処方せんをもらい内服薬と同じ場所に保管し活用している。また、申し送り帳や記録に残し職員1人1人が確認出来る様にしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	朝起床後は1杯の水を飲ませるようにしている。繊維の多い物や乳製品を多くとれるようにし、日中の散歩等にて予防を心掛けている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後に口腔ケアを実施している。自分のできる方についても確認を行なっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人、家族の話によりその方に合った食事の量を提供している。主治医より指示が出ている方に関しては併設老健栄養士へ相談し提供している。摂取量が少ない方へは補助食品等を摂取していただくこともある。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染のマニュアルを作成している。発生時の対応として併設老健の協力体制も整っている。また、発生しやすい時期等には呼び掛けを行い面会時の消毒、予防を実施している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	生鮮食品に関しては使用する日に持ってきて頂く様にしている。調理器具に関しては定期的に消毒を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	隣接道路からは建物が遠く近隣の方からは分かりづらいとの声も聞かれる。玄関周りには花壇をおいたりボードを飾るなどの工夫をしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中はオルゴールが流れておりゆっくり過ごせる雰囲気がある。共有スペースには花を飾り季節感を感じられるようにしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、居室以外にセミプライベートスペースを設け各々自由に過ごされている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	見学、契約時に持ち込み可は説明している。ダンスやテレビなどの持ち込みがあり使用されている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	定期的に換気を行っている。日中はカーテンを開放し全居室に光が入るように配慮している。冷暖房の温度調節は入居者の体調なども考慮し職員が調節している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、浴室、トイレには手すりを設置している。必要に応じて移動バーの設置、P-トイレのセッティングを行いできるだけ自立できる様支援している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室やトイレには目印をつけている。特に混乱される方はいない。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	裏庭には畑があり野菜の栽培をしている。入居者も成長を楽しみにされており収穫などを一緒に行っている。また、玄関にある花の水やりなども行っている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
		○	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている		①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
		○	③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

近くに公園があり隣接道路の交通量も少ない為、時々利用者と一緒にそこで食事を楽しんでいる。また、家族との交流も増やす為、年に3～4回家族を交えての食事会も実施している。併設老健があり、各分野での勉強会や研修会などを行い職員の資質向上を図り日々のケアに役立てている。ホームの裏庭に家庭菜園があり、1年を通して色々な野菜を作っており収穫祭などをし季節感を味わってもらえる様にしている。日頃の食事に関しても3食手作り、減塩に心掛けており、食事も入居者の食べたい物や季節感を味わえる食材を使用し、おやつもなるべく手作りで提供できる様に取り組んでいる。